

読書について

岩見恒典

読書には楽しみとしての自由な読書もあれば、知識を得るための規制された読書もあります。楽しみといっても、暇な時間に書物を読んで過ごすことだけでなく、忙しい時に時間をみつけて本を読むのも楽しみとしての読書といえるでしょう。一方、知識を得るための読書は、専門の書物を読むことになりますから、自由気ままにという読書ではなくなります。しかし、楽しみのための読書からも知識や知恵を得ることができますし、知識を得るための読書から楽しさや知恵を見いだすことも可能でしょうから、明確に区別することはできないと思います。「知識」というのは、ある物事についての理解や認識であり、科学の発展や進歩に伴って累積されていくものですから十年前の知識は古くなってしまいます。それに対して、「知恵」は物事の理を考え判断し処理する能力といえるので、知識とは違って古くなるものではなく、人間の生活と切り離すことの出来ない、一人一人が体得すべき能力といえます。勿論、知恵を得る途は読書だけではなく、むしろ、生活上での様々な体験を通して得られることのほうが多いでしょうし、全く読書をしなくても知恵を身につけている人が多いのも事実です。

読書とは書物との精神的つながりを意味するのでしょうから、一種の精神的栄養物と言えるのではないのでしょうか。以前に、ある書物で、肉体の栄養物である食物の食べ方の傾向と、読書の仕方について比較した文章を読んだことがあります。それは、食物について粗食家・美食家といわれる人や、下手物食い・食わず嫌いといわれる人、さらには、よくかんで食べる人や、

あまりかまないで食べる人もあり、このような食べ方のさまざまな傾向と、読書の仕方が似ているということです。栄養のバランスを考慮した食事を用意しても、それを消化し吸収する能力がなければ、血となり肉となるものではないのと同様に、いくら良い書物を読んでも、それが身につけられなくては時間の浪費にすぎないことになります。そこで、食物を栄養学的な観点からのみ考えるとしますと、おそらく個人の嗜好を無視してしまうことになるでしょうし、書物の読み方も個人の好みを考えなければ無味乾燥になることでしょう。食物でも好きなものは、その人の体質に合っているといわれるように、書物についても同じようなことがいえるのではないのでしょうか。

しかし、食物についてどんな物を食べても良いように、書物についてもどんな物を読んでも良いのではと考えています。あまりおかしなものを食べて消化不良になったり、下痢をしては困りますが、消化の良いものだけを食べていれば十分であるともいえないでしょう。ときには歯ごたえのあるものを口にすべきでしょうし、刺激の強いものにも挑戦することが必要です。更にいえば、毒素に対する抵抗力を持つことも必要でしょうから、いたずらに中毒症状を恐れることはないと思います。読書も同じように、あれを読んではいけない、これは読まない方がよいというのではなく、どんな書物であろうと読めば何かが残るものであり、それをどのように生かすかが大切なことだと考えます。

(Tsunenori, IWAMI : 文学部教授)

『EC統合後の投資銀行』／インゴ・ウォルター、ロイ・G. スミス著；平木多賀人、木村雄偉訳。--東京：東洋経済新報社、1990。--196p。 < 338.1K/460 >

1992年のEC統合後、関税が撤廃され巨大な市場が誕生する。過度な保護貿易を脱却することにより価格競争の激化が予想されている。消費者にとってはより効率の良い市場が形成されることになるが、企業側はこれに対応するのに事業の再編成に存亡をかけている。EC市場が「恐竜の荒らしている場」にならないよう中小企業の成長および国営大企業の合理化が期待されている。これに鑑み、投資銀行はECにおいて業務を展開するに際して数多くのビジネスチャンスが供されている。本書は国営企業の民営化による株式の大量放出やユーロ市場におけるエクイティファイナンスを初め、M&Aの斡旋・仲介業務等、投資銀行のこれからの在り方を探る。

(88B202 Lavezzari FABRIZIO)

『魔のヴァイオリン』／佐々木庸一著。--東京：音楽之友社、1982。--222p。--(音楽選書)

[4月購入予定]

魔のヴァイオリン「チェリーニ」を手にした者が次々に怪死する事件や、にせ名器作りの話等興味深い話を数多く交えながらヴァイオリンに秘められた謎を解き明かしてくれる一冊。これによるとヴァイオリンはピアノや管楽器と違って、よい物を大事に使えば確実に300年は使えるそうである。実際最近の演奏会でも17△△年製というストラディヴァリが実にすばらしい音色を聞かせてくれている。しかし、その丈夫で長持ちのクレモナの名器も最近の高いピッチや大ホールでのせいで消耗し寿命が尽きかけているとのこと。その音を聞いておくのは今のうちかもしれない。

(逐次刊行物係・関川理美)

私の一冊

『第二の罪』：ドイツ人であることの重荷／ラルフ・ジョルダーノ著；永井清彦[ほか]訳。--東京：白水社、1990。--417.5p。

< 234K/1167 >

『荒れ野の40年：ヴァイツゼッカー大統領演説全文：1985年5月8日』／リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカー[述]；永井清彦[訳]。--東京：岩波書店、1986。--55p。--(岩波ブックレット；No.55)

< 319.8K/398/～D >

この二冊を一組として。

◎殺したのは600万人じゃない。

(他国の被害は極小に、自国の被害は極大に見積もられる。)

◎でも、我々は知らなかったのだ。

(重大事件も起こらなかったことになる。)

◎他の連中だって罪を犯したのだ。

(他国の罪が自国の罪を相殺する。)

◎ヒトラーの下では秩序があった。(だが被害者は顧みられない。)

◎いい加減にもう忘れよう。(第二の罪は続く)

『第二の罪』より

「過去に目を閉ざす者は、結局のところ現在にも目を閉ざすことになります。」

ヴァイツゼッカー

日本全国津々浦々、過去に目を閉ざす人々のための必読書。

(林田雄二 Yuji HAYASHIDA：文学部独文科助手)

《伝言板コーナー》

☆伝言その2☆

各階閲覧室に『Imidas』、『知恵蔵』、『現代用語の基礎知識』ほか各種辞書類を用意しました。これら辞書類は指定階以外で利用していただいても構いません。ご活用ください。

★伝言その1★

3年次生も書庫に入れます!!
今年度より3年次生も前期から閉架書庫に入ることができるようになりました。ただし、許可証が必要です。まずは手続きのために閲覧カウンターまで。4年次生は今まで通りです。

—入庫時間—

水曜日 13:00～16:30

土曜日 9:00～11:30

★伝言その4★

恒例になりましたGEMMA講習会を始めます。知ってて100倍得するGEMMA検索法だよ。みんな、どーんどん参加してねっ!!

☆伝言その3☆

図書館では今年度も新入生向けのイベントを開催します。4月1日から5日までの図書館招待日では随時ライブラリー・ツアーを行うほか、推薦図書や貴重書の展示、貸し出し方法や日経テレコン、GEMMAの実演も行います。図書館を積極的に活用したい・図書館のことがよくわからないという方、この機会をお見逃しなく!!

《文庫訪問》

南山大学研究所・資料室 ア・ラ・カルト

今回の文庫訪問では、南山大学の構内にある、いろいろな資料室にスポットを当ててみました。大学には、図書館のほかにもこんな資料室・図書室があることをご存知でしたか？ 知っているとう便利、使ってみると役に立つ、そんな資料室をご紹介します。

なお、それぞれの紹介で、別置記号のアルファベットに注目！もし図書館のGEMMAやカード目録で検索した際、請求番号の最上段にこのアルファベットをみつけたら、その資料は図書館ではなく、各々の資料室にあります。

1 正門を通り抜けてメイン・ストリートを歩いていくと、最初にくぐる棟が第一研究棟です。ここには、こんな研究所があります。

社会倫理研究所（第一研究棟6階）

社会倫理研究に関する図書約4,800冊、雑誌約40タイトルを所蔵。1985年以降の蔵書はGEMMAによって検索可能です。学生は学生証を持って事務室受付へ。手続き後、図書室への入室が出来ます。ただし、学部学生は閲覧のみ可。（貸出はできません。）

別置記号：D

2 さらにメイン・ストリートを進んでいくと、左手にある建物がL棟です。ここには、1資料室と3つの研究センターがあります。

視聴覚ライブラリー（L棟2階）

資料はビデオ約2,000点、オーディオ約2,300点、その他スライド、地図など約770点を所蔵。語学の資料のみならず、美術・文化・スポーツなどの教養教材、経済・経営・法学などの専門分野の資料教材もかなりあります。入室するには学生証が必要です。が、学部学生には貸し出しはしていません。また、オーディオ（サウンド）テープのみ、持ち込んでライブラリーで聴くことができます。なお、詳細は視聴覚ライブラリーのしおりをご覧ください。

別置記号：F

—利用時間—

平日：9:00～11:30（9:00～11:20）

12:30～16:30（12:30～16:20）

土曜：9:00～11:30（9:00～11:20）（ ）内は資料利用可能時間

オーストラリア研究センター（L棟4階）

主に、第2次世界大戦後のオーストラリアの政治・法律・経済・社会、ならびにこれらに関する日豪関係など社会科学に重点を置き、日本及びオーストラリアで現在進行中のこれらの研究活動の情報を収集、提供しています。現在、約3,900冊の図書と、580タイトルの雑誌を所蔵しており、貸出可。またマイクロリーダーも設置してあるのでマイクロの閲覧もできます。



ラテンアメリカ研究センター (L棟5階)

図書約7,300冊、キューバ、ブラジル、メキシコ、アルゼンチンの新聞をはじめとする209タイトルの雑誌を所蔵。ラテンアメリカを網羅しており、中部地区随一と言っても過言ではありません。ここではタンゴのテープ(¥350)と資料集(¥1000)も販売しています。

別置記号：E

アメリカ研究センター (L棟8階)

アメリカ研究に関する社会科学の分野を中心とした文献・資料が収集されており、蔵書冊数約14,000冊、雑誌232タイトルが所蔵されています。別置記号：A

★これらL棟の3センターを利用するには、まず、利用申込書(各センターにある)に必要な事項を記入し、指導教員の先生のサインをもらって受付へ。そこで登録すれば、3年間有効の利用票を交付してもらえます。これで、あなたも資料を借りることができます。学部学生は貸し出し冊数は2冊、貸し出し期間は2週間です。また、休暇中は長期貸出、卒論用には特別貸出もしています。これらの制度を利用すれば、一般貸出とは別に、5冊まで1ヶ月間の期限で借りることができます。

—利用時間— (各センター共)

平日：10:00～11:30 土曜：10:00～12:00
12:15～16:30

3 グリーン・エリアを越えた奥の奥。ここにある建物が宗教文化研究所と人類学研究所です。

南山宗教文化研究所

約13,000冊、361タイトルの雑誌を所蔵しており、『大蔵経』など仏教関係の資料に特色があります。

人類学研究所

人類学、民族学、考古学だけでなく、言語学に亙る約9,000冊、タイトル数にして475タイトルの雑誌を所蔵しています。この研究所には、本学第2代学長であった沼澤喜一先生の蔵書をおつめた「沼澤文庫」や「エーダ文庫」もあります〔詳細は館報第5号に掲載しました。〕

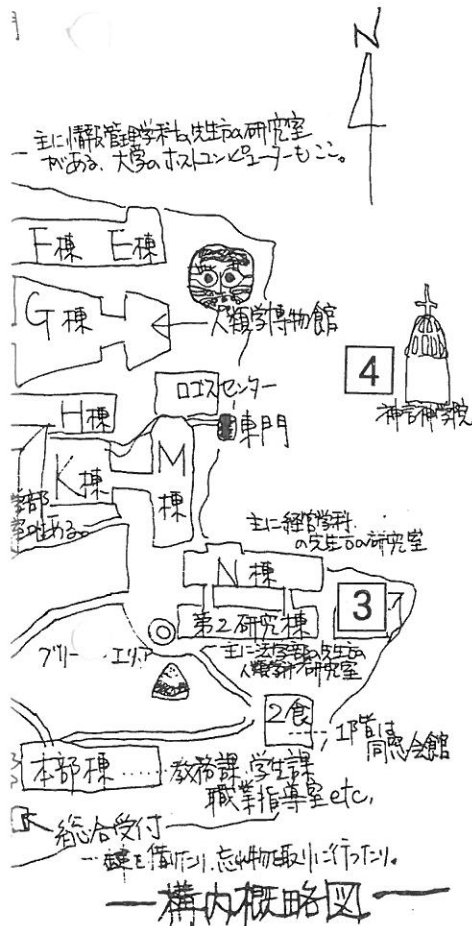
別置記号：B

★宗教文化研究所や人類学研究所に必要な資料があった場合には学生証を事務室窓口に提示して、利用したい旨を申し出てください。学部学生は閲覧のみ可能です。ただし、コピーのための当日のみの持ち出しはできます。

4 神言神学院図書館

大学に隣接している神言神学院の図書館は、神学および哲学関係などの図書や雑誌を多数所蔵しています。学生証持参で利用できます。

(編集委員 平松富美・尾上登母)



《GEMMA便利帳》

「本を探す3つの基本」の巻

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今はまだ、苦しかった受験勉強を乗り越えて、ホッと一息、と言ったところでしょうか。でも、勉強たるもの、これで終わったわけではなく、これからも続きます。特に大学での勉強は高校時代のそれとは違い、自分自身が主体となって進めていかなければなりません。そこで必要となってくるのが図書館です。図書館では皆さんのこれからの4年間（もちろんそれが5年でも）を全面的にバックアップします。では、図書館利用法のうち「本の探し方」を説明しましょう。ひと言で「本の探し方」と言っても、そこはそれ、多種多様な方法がありますが、ここでは基本とでも言うべき3つの方法について簡単に説明しましょう。

第1の基本は「棚を見る」です。図書館の本は書かれている内容に沿って、体系的に棚に並んでいます。それを上手に利用すれば、ある程度目的に沿った内容の本を探しだすことができます。さらに“思わぬ掘り出し物”に当たるという特典がつくものの、“特定の本が探しにくい”という弱みがあります。つまり、「棚を見る」は、〇〇についての本を探すには便利ですが、ある1冊の本を探すには不便ということです。

第2の基本は「目録カードをひく」です。高校時代の図書室で既に経験済みかもしれませんが、本の情報が小さなカードに詰め込まれていて、書名・著者名などから探すことができます。逆に目録カードの弱みは、書名・著者名の先頭が正確に分かっていないと、本を探すことができないということです。

第3の基本は「GEMMAをひく」です。（GEMMAは図書館のコンピュータを使った目録システムの愛称で、ラテン語で“宝石”という意味を持っています。）GEMMAでは目録カードの持つ弱みを気にする必要はありません。正確な書名が分からなくても、書名の一部分の言葉だけで探すことがGEMMAならできます。でもそんな立派なGEMMAにもやはり弱みがあります。GEMMAで探すことのできる本の範囲は基本的には1985年以降のもの、約13万冊に限られています。つまり、これ以外の本は目録カードに頼らざるを得ません。ただし、1984年以前の本も順次GEMMAで探すことができるようになっていきますので、「まずGEMMA、だめなら目録カード」の順番が、ずばり賢い選択と言えるでしょう。もう一つの賢い選択は「GEMMA講習会」です。GEMMAはコンピュータを相手にするので、使い方にちょっとした工夫がいらいます。それを簡単にしかも早く覚えることができるのが、この「GEMMA講習会」です。「GEMMA講習会」は毎週水曜日に、実際にGEMMAを使いながら行われます。レファレンス・カウンターでいつでも申し込みを受け付けていますので、是非受講してみてください。

GEMMAデータベース現況

1991.3.11現在

(単位：書誌レコード数)

種 別	図 書		雑 誌	
	洋 図 書	和 図 書	洋 雑 誌	和 雑 誌
内 訳	58,202	63,401	4,780	6,186
合 計	121,603		10,966	

(システム係・三谷靖司)

《所蔵資料の紹介》

The English Recusant Literature 1558-1640
No.1-394

《英国国教会忌避者の文学》

Ed. by D. M. Rogers

A collection of 617 facsimile reprints bound in 394 volumes
(published by the Scholar Press 1969 to 1979)

[請求番号 198/2264/v.1-394]

今回はカトリック系大学である南山大学図書館が所蔵しているキリスト教に関するコレクションを紹介いたします。

タイトルにある“Recusant”という言葉をOED [Oxford English Dictionary] の第2版(請求番号 R/833/150-1) で引いてみると、

One especially a Roman Catholic (Popish recusant), who refused to attend the services of the Church of England

とある。つまり、英国政府に強制された英国国教を受け入れることを拒んだカトリック信者のことなのです。

ここで資料を直接説明するまえにイギリスの宗教史について少し説明をしなければなりません。イギリスの宗教改革については、世界史で勉強した学生諸君もたくさんいらっしゃると思いますが、よく知られているように、ヘンリーⅧ世の離婚問題に端を発しています。ヘンリーⅧ世の最初の結婚(彼は生涯6回結婚した)は、当時としてはよくあった政略結婚であり、教会法の禁止している近親結婚でもあったため、教皇の特別の許可を得て成立したものでした。しかし18年後、彼は突然離婚を言い出し、やがて教皇と対立するようになり遂に1534年に「国王至上法」の制定に至り国教会の首長となったのです。こうしてローマ教皇庁とは分離し、やがてカトリック信者弾圧の道へと進むのです。こうしたカトリックの受難がエリザベスⅠ世(在位1558-1603)の時代まで続くこととなります。

とは言っても当然のことながら、こうした宗教改革の流れに反発するカトリック信者が多数存在したことは容易に想像できるでしょう。こうした弾圧されたカトリック信者によって発行された文

献集成が“English Recusant Literature”なのです。これは当初は大規模なコレクションではなく、一般に知られることもなくカトリック信者の手で細々と生き残った文献の集まりにしかすぎませんでした。こうした散逸していた個々の文献が“A Catalogue of Catholic Books in English Printed Abroad or Secretly in England 1558-1640” (ed. by A. F. Allison & M. Rogers) という目録編集に伴い、大英博物館・ハンチントン図書館・コーンウォール、ヨークシャーやアイルランドの修道院や神学校から収集された資料も含め、書物・小冊子・ビラに至る約630点のコレクションとなったのです。

内容としては、キリスト教教義・信仰箇条・信仰生活・教会行政など宗教論争に集中していて、極めて政治的・社会的な動機を内包しているイギリス宗教改革の思想的実態を伝えると共に、邪教視され抹消されていったRecusantがいかにか大きな影響をイギリスに与えたかを知るのに大変貴重な原資料と言えます。また個々の文献をみていくと、トマス・モアの著作とかアウグスチヌスの『告白録』、サレジオの『信仰生活入門』の各英訳をはじめ、日本のキリシタン迫害に関する文献等も含まれており、エリザベスⅠ世時代への理解を深めるためにも最適なコレクションと言えましょう。さらにファクシミリ版ではありますが、初期の印刷技術研究とか書誌学にも利用しうる資料です。

一度手にとって読んでみてください。ながめてみるだけでも構いません。内容は難しいと思いますが、イギリスの宗教改革の姿がほんの少し見えてくるかもしれません。

(参考係・近藤幹夫)

《外部データベース紹介》

日経ニュース・テレコン

館報No.4で紹介したニュース・テレコン。新聞記事検索などでよく利用していただいています。今回はもっと詳しくその使い方をご紹介します。

湾岸戦争で流出した油にまみれ、息もたえだえになっている海鳥の映像は今も記憶に新しいところです。先の戦争がまさに地球環境破壊戦争であることをあの海鳥の姿に見たような気がします。ここ数年、地球全体の環境破壊が様々に取り上げられ、環境保護意識の高まりもあって関連の新聞記事数も増えているようです。

そこで、例えばこの「環境問題」をテーマに記事を探す場合、

1. どの新聞の記事
2. いつごろの記事
3. キーワードとなる言葉

この3点をご用意いただければ、後は係員が検索します。一番の決め手はキーワードの選び方です。思いつくままいくつか挙げてみますと、テーマを表す言葉として「環境破壊」、「自然保護」、「地球環境」などがまず浮かびます。または、その要因となる言葉、即ち「炭酸ガス」による「地球温暖化」、「フロンガス」による「オゾン層」の破壊、「酸性雨」、「熱帯林」の消失、「温室効果」などのキーワードで検索すればテーマ別の検索よりも具体的な問題が調べられるでしょう。また、キーワードに頼るだけでなく次のような方法もあります。

●特集やコラムの検索

新聞や雑誌にはコラムという囲み記事があります。例えば日本経済新聞の検索では「社説」、「やさしい経済学」、「大機小機」などがこれにあたります。探している記事がコラム記事でしかもコラム名がはっきりしている時は、

コラム名での検索が有効です。

●紙面の検索

「日経四紙」の記事検索については「一面」、「社会」、「スポーツ」など新聞紙面ごとの呼称（面呼称）によって分類され、キーワード化した分類キーワードを用いることができます。1つのキーワードで紙面1ページ分の記事をまるごと検索してくるといわけです。

●業界動向の検索

上場・店頭企業であれば、あらかじめ業種ごとに分類されたコードを使って検索することができます。例えば、「建設業界の地下開発について」というテーマの場合、キーワードで「建設業界 AND 地下開発」とするよりも建設大手5社を表すコードを使って「PD411 AND 地下開発」とすると検索漏れを防ぐことができます。

その他ニュース・テレコンのメニューは盛り沢山です。例えば、『週刊エコノミスト』（毎日新聞社刊）に掲載された論文などの全文が検索できる「エコノミスト」、EC統合に関する情報を満載した「EC情報」。また「日経会社プロフィール」などの国内企業のデータメニューを利用して、会社訪問をする前に会社の概要や面会者のプロフィールを頭に叩き込んでおくのもよいかもしれません。ともかく、百聞は一見にしかずです。一度利用してみてください。

参考資料：『日経ニュース・テレコン活用事例』
『NIKKEI TELECOM NEWS』

(参考係・山辺美津香)

《ライブラリアンズ・ハート》

♥ もっと皆さんの声を聞かせてください！

私は閲覧業務を始めて2年半ほどになりますが、まず驚いたのは、図書館を利用する学生さんが大変多いことです。授業と授業の間などは、カウンターの前にちょっとした列ができます。定期試験期間ともなれば、入館ゲートから閲覧席にぬける1階のフロアーは、まるで休日の地下街並の通行量、カウンターは夕食の買い出しでごった返すスーパーのレジのような状態で、この2週間は学生さんと同じく閲覧系の私たちにとっても試練の日々なのです。しかもこのような状況は年々激化するような気がします。

事実、昨年と今年を比較してみても、入館者数は13,401人増、貸出冊数は12,679冊増（1月末現在）と数字の上でも利用の増加は顕著です。閲覧系である私にとって、やはり利用の増加が最大の喜びです。図書館の資料は利用されてこそ価値があるものだと思うからです。

どうしたらもっと利用しやすい図書館にできるか日常の業務の中で考えてはいるのですが、実際に利用してみないとわからないことも数多くあると思います。ご存じの方も多いと思いますが、図書館では利用者の皆さんのご要望にお応えするために、「あなたの声」「学生用希望図書」の制度を設けています。このような制度を活用し、もっと皆さんの生の声を聞かせてください。

最後は宣伝のようになってしまいましたが、新学期を迎えて、カウンターでより多くの方々と本を通じてコミュニケーションできるのを楽しみにしています。
(閲覧係・木村久美子)

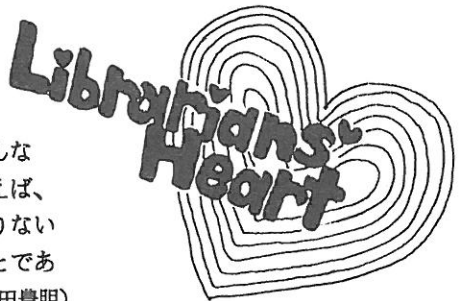
♥ 図書館サービスの「裏方」

図書館とは徹底的にサービス機関である。どんなサービスをするのか——情報の提供である。どんな情報を提供するのか——人類が培ってきた知識と営みの記録である。こんなたいしたものを無料でサービスするのであるから、その担当者たる図書館員とは奇特な人である、と我ながら思う。

さて実際には、約1億6千万円の予算（平成2年度）で、膨大な歴史的・世界的資料群より、南山大学としての教育と研究に必要なものを収集していく訳であるから、これは並大抵なことではない。ちなみに最近では年間約3万点の資料を日本国内のみならず世界中から取り寄せている。ついこの間、イラクのミサイル攻撃を受けているイスラエルからも資料が届いて喜んだものである。

まず注文に際しては、一点一点について確実でより安価に入手可能な方法と注文先を決めてオーダーを出す。そして到着した資料についてこれも一点ごとにきめ細かな書誌データを作成し、請求番号を付して、GEMMAやカード目録で検索することができるようにする。そうして初めて資料は書架に並んで利用を待つことになる。この外部からは見えない根気のいる作業を、図書館2階の事務室のたった十数人の図書館員で毎日繰り返しているのである。やはり図書館とは奇特な人の集まりなのであろう、と我ながら思う。

それだけに、貸出カウンターに出て、自分たちの扱った資料が利用され役立っているのに立ちあう時の喜びは大きい。（最近の利用の多さは我々の励みである）逆に、何年間も利用されないままホコリをかぶっている資料たちもある。しかしそれらもいつかは役に立つ日が来るであろうことを信じて、今日も我々は果てしない丹念な繰り返しの作業に励んでいる。そんな我々の気持ち（やる気）の支えは何か。自分に即して言えば、知識（学問）への畏敬と興味、そして人間の営みへの限りない好奇心のもとに、何と言っても「本」が好きだということであろう。
(図書受入係・山田豊明)



ライブラリーカレンダー

1991. 4. ~ 1991. 6.

4 月				5 月				6 月									
9:00		3:30		6:30		G	文	書	9:00		3:30		6:30		G	文	書
0:00	4:30				0:00				4:30				0:00	4:30			
1 (月)									1 (水)								★
2 (火)									2 (木)								★
3 (水)								★	3 (金)								
4 (木)									4 (土)								
5 (金)									5 (日)								
6 (土)								★	6 (月)								
7 (日)									7 (火)								
8 (月)									8 (水)								★
9 (火)									9 (木)								★
10 (水)								★	10 (金)								★
11 (木)								★	11 (土)								
12 (金)									12 (日)								
13 (土)								★	13 (月)								
14 (日)									14 (火)								
15 (月)									15 (水)								★
16 (火)									16 (木)								
17 (水)								★	17 (金)								
18 (木)									18 (土)								★
19 (金)									19 (日)								
20 (土)								★	20 (月)								
21 (日)									21 (火)								
22 (月)									22 (水)								★
23 (火)									23 (木)								
24 (水)								★	24 (金)								
25 (木)									25 (土)								★
26 (金)									26 (日)								
27 (土)								★	27 (月)								
28 (日)									28 (火)								
29 (月)									29 (水)								★
30 (火)									30 (木)								
									31 (金)								

: 開館時間 G : GENMA 講習会(初級) 文 : 文献探索講習会
 書 : 3・4年次生書庫入庫日 (水曜 pm 1:00-4:30, 土曜 am 9:00-11:30)

《編集後記》

花よりだんご (平松)
 だんごより“HEART” (紅露)
 “Heart” もだんごも♡ (尾上)
 今年度も新星△TNAMIΣはがんばります。
 より一層のご愛読を・・・



(AD : 平松富美)

南山大学図書館報 デュナミス No.9

 南山大学図書館 1991.4.1 発行
 〒466 名古屋市昭和区山里町18
 Tel. 052 (832) 3707
 Fax(G3) 052 (833) 6986